神戸女学院大学音楽学部
アウトリーチ通信

第 33 号
2019 年 3 月 20 日発行
年 2 回発行

神戸女学院大学音楽学部
アウトリーチ・センター

子どものための コンサート・シリーズ

スペシャル・コンサート

「子どものためのスペシャル・コンサート～ハープの魅力を満喫しよう！～（「子どものためのコンサート・シリーズ」第五十一回）を十月十三日（土）、本学講堂で開催しました（十四時開演、六十分、来場者・子ども七十五名、大人八十九名、計百六十四名）。

出演は、日本を代表するハーピストの木村茉莉先生（本学音楽学部非常勤講師）、寺澤彩先生（本学卒業生、音楽学部非常勤講師）と私、岩本紗綾（本学大学院音楽研究科二年生）の三名のハープ奏者です。ハープの魅力を存分に知ってもらうために、舞台にはグランド・ハープを三台並べて、見た目も華やかにコンサートを始めました。珍しい作曲家の作品も数多く登場するので、興味をもってもらえるようプロジェクターで作曲者の顔を映して、作曲者と曲の紹介を交えて進行しました。

オープニングは、フランス生まれのカルロス・サルツェードが作曲した組曲《八つの舞曲》より〈ルンバ〉を三台ハープで演奏しました。かわいらしい曲調で、華やかな幕開けとなりました。

続いて、ハープ奏者でパリ音楽院教授を務めたマルセル・トゥルニエの作品を二曲演奏しました。一曲目は二台ハープによる《四つのプレリュード》より〈第一番〉と〈第四番〉。二曲目は木村先生のソロで、ハープらしい流れるような旋律の〈朝に〉です。

次に、ガブリエル・フォーレ作曲〈子守歌〉を三台ハープで演奏しました。一曲目に弾いたトリオの印象とはまた違った、しっとりと優しいハープの演奏を楽しんでもらいました。

プログラム前半の最後は、木村先生のソロによる黛敏郎作曲〈ＲＯＫＵＤＡＮ〉です。この曲は箏曲の〈六段の調べ〉をハープのために編曲したもので、ハープの特殊奏法がたくさん出てきます。

まずは舞台に琴を出して、「みなさん、この楽器を知っていますか？」と聞くと、子どもたちは元気に「お琴！」と答えてくれました。寺澤先生が琴の説明を

して原曲の八橋検校作曲〈六段の調べ〉の始めのフレーズを弾いたので、少しむずかしい曲も興味を持って聴いてもらえました。木村先生の独奏の後、〈ＲＯＫＵＤＡＮ〉に登場した特殊奏法を、実演を交えながら説明しました。ハープから出る不思議な音に、子どもたちは興味津々の様子でした。

ここで「ハープってどんな楽器？」というコーナーを設けて、ハープの弦の本数や、弦の色の秘密、また七本のペダルによって音が魔法のように変化することを説明しました。

楽器説明の後はアクティビティのコーナーです。プログラムにハープのシールが貼ってあった子ども三人を舞台に招き上げて、ハープを弾いてもらいました。身体の小さい子どものために用意していたアイリッシュ・ハープも登場。みんな木村先生の指導を熱心に聞いて、すぐに〈きらきら星〉が弾けるようになりました。

プログラム後半の一曲目は、一九三九年生まれのアメリカのハープ奏者デイヴィッド・ワトキンスが作曲した独奏曲〈ファイヤー・ダンス〉です。この曲は南アメリカの原住民の踊りをイメージして作られた曲なので、プロジェクターで原住民の姿を映し出して、印象を伝えるようにしました。今までとはまた違った激しいハープの演奏に、子どもたちは食い入るように聴いてくれていました。

次に、サルツェード作曲〈夜の歌〉を寺澤先生がソロで演奏しました。この曲も特殊奏法がたくさん登場するので、子どもたちは静かにハープの音色を楽しんでくれているようでした。

最後に、本学ミュージック・クリエィション専攻の川上千晶（四年生）、鳩山冴映（二年生）、佐々木千尋（二年生）の三名による編曲で〈世界名曲メドレー〉を演奏しました。この日のために作られたハープ三台のための作品は、聴き馴染みのある世界の民謡やクラシック音楽を中心に編曲されており、メドレー最後の曲〈さんぽ〉は会場の子どもたちも楽しく歌いながら聴いてくれました。

終演後の楽器体験コーナーでは、今回の主役のグランド・ハープに加えて、小さいサイズのアイリッシュ・ハープと琴が登場しました。アイリッシュ・ハープは身体が小さくてもうまく音が出せるので、子どもたちもグリッサンドをしたり、〈きらきら星〉にチャレンジしたり、大人の方はその様子を撮影したりと皆さん楽しんでいるようでした。

（岩本紗綾・記）

クリスマス・コンサート

「子どものためのクリスマス・コンサート～音で楽しむおはなしの世界～『あのね、サンタの国ではね…』」（子どものためのコンサート・シリーズ第五十二回）を十二月八日（土）に本学講堂で開催しました（第一部十三時開演、第二部十六時開演、各六十分、来場者数・第一部五百九十五名／第二部百八十七名、計七百八十二名）。

出演は「音楽によるアウトリーチ」十四期生の田中佑奈（フルート）、樋口成香（オーボエ）、丹野桃子（ピアノ）、和田悠加（ピアノ）の四人グループ「アンサンブルくれよん」です。

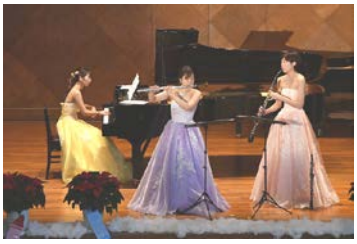
今回のコンサートは、嘉納純子の絵本『あのね、サンタの国ではね…』（偕成社、一九九〇、絵：黒井健）を使って、サンタの国の一年間をお話と音楽で融合させてお届けしました。

コンサートの幕開けに、バーナード作曲〈ウィンター・ワンダーランド〉をフルート、オーボエ、ピアノで演奏しました。メンバー紹介の後は、楽器紹介コーナーです。

フルート独奏でゴダール作曲《三つの小品による組曲》より〈ワルツ〉、次にオーボエ独奏でチャイコフスキー作曲《白鳥の湖》より〈情景〉、最後にピアノ連弾で同じくチャイコフスキー作曲《くるみ割り人形》より〈トレパーク〉を演奏して各楽器を紹介した上で、会場の皆さんをお話の世界へと導きました。

絵本のお話に沿って、一月から十二月までの各場面に合う曲を演奏しました。一月はヴェルディ作曲《ラ・トラヴィアータ》より〈乾杯の歌〉で、サンタたちが賑やかに新年会をしている様子をフルート、オーボエ、ピアノで表しました。二月は子どもたちからのたくさんの手紙を一枚一枚丁寧に読んでいき、三月ではおもちゃ畑でのプレゼント作りのにぎやかな様子をピアノ独奏のエルメンライヒ作曲〈紡ぎ歌〉でお届けし、四月はメンデルスゾーン作曲〈春の歌〉でオーボエとコール・アングレとの二つの音色を聴き比べてもらいました。五月はサンタたちの体力測定でドゥメルスマン作曲〈《ウィリアム・テル》の主題による華麗なる二重奏曲〉をフルート、オーボエ、ピアノで演奏し、技巧的な動きに客席は釘付けでした。

雨の多い六月はショパンの〈雨だれの前奏曲〉をピアノ独奏し、雨漏りでトナカイたちが大慌てする場面では、フルート独奏でリムスキー＝コルサコフ作曲〈熊蜂の飛行〉をお届けしました。サンタたちが望遠鏡を持ってよい子を探しに行く七月は、ドビュッシー作曲〈ゴリウォーグのケークウォーク〉（戸田英里編曲）をフルート、



オーボエ、コール・アングレ、ピアノで表現しました。

八月はバカンスを楽しみ、九月になるとおもちゃ畑の収穫が始まります。ここで、アクティビティとしておもちゃ畑からのプレゼントの収穫を会場の皆さんとリズムに合わせて行いました。第一部では小さな子どもも多い中、振付けをしながら楽しそうに参加してくれました。十月にはサンタ会議が行われ、サンタたちが軽快に話し合いを進めている様子を二台ピアノの有名曲、ミヨー作曲《スカラムーシュ》より第一曲〈Ｖｉｆ〉で表現しました。十一月はクリスマスに向けてサンタやトナカイたちがおめかしをし、サンタたちが夜空へ駆けていくクライマックスの十二月は、フルート、オーボエ、ピアノ二台でアンダーソン作曲〈そりすべり〉（松尾璃奈編曲）を華やかに演奏しました。最後には会場の皆さんも一緒に〈クリスマス・メドレー〉（赤鼻のトナカイ～きよしこの夜～ジングル・ベル）を歌い、会場が一体となっているのを感じました。

作曲家たちが様々な思いを込めて音楽を作っているからこそ、私たちは音楽を聴いて色々な気持ちになり、その時々の気分で思い浮かぶ曲があることを伝え、たくさんの拍手の中、幕を閉じました。

終演後にはフルート、ピアノ、打楽器の楽器体験と、ストローリードの楽器工作を設け、たくさんの子どもたちが参加してくれました。

このコンサートで改めて音楽が与えてくれる想像力や発想力の豊かさを感じました。ご来場下さった皆さんが「今の自分にぴったりな曲を見つけてみよう！」と思っていただけたなら幸いです。

また、本コンサート・シリーズが今回、来場三万人目のお客様をお迎えすることができたことをうれしく思います。

「アンサンブルくれよん」にとってこのコンサートに出演できたことは、間違いなく今後の活動の糧になると実感しています。三月に結成三周年を迎えるにあたり、これからのあり方について考えさせられる機会となりました。今後ともどうぞ「アンサンブルくれよん」の活躍にご期待ください！

（樋口成香・記）

学外アウトリーチ

西宮市立子育て総合センター付属あおぞら幼稚園

十一月一日（木）十時から西宮市立子育て総合センター付属あおぞら幼稚園（西宮市津田町三―四十、園長・河﨑祥子先生）にて園児・乳幼児・保護者対象の「秋のおさんぽコンサート」（四十分）を行いました（声楽・山下優子、ピアノ・向井千沙都、齊藤明日香）。

「音楽で秋のお散歩を楽しむ」をテーマに、色々な動物たちが登場する曲目で、視覚的にも楽しんでもらえるように動物たちの絵カードを用意したり、クイズも交えたり、喜んで聴いてもらえるような秋の季節らしいプログラムを考えました。

はじめに、久石譲作曲の〈さんぽ〉を皆で歌いました。これ以降、今回のテーマである「秋のお散歩」を常に意識してもらえるように、〈さんぽ〉の一部を曲間に度々取り入れました。

ピアノの鍵盤の数のクイズをした後、ショパン作曲の〈小犬のワルツ〉を演奏しました。次に、ヨハン・シュトラウス二世作曲のオペレッタ《こうもり》より〈侯爵様、貴方のようなお方は〉をドイツ語で独唱しました。曲紹介の時に原語演奏であることを伝えると、思いの外、反応があって驚きました。また、こうもりの絵カードを出すと「こうもり！」と、子どもたちの声がたくさん聞こえました。

続いて、よい声で歌うための顔や身体のストレッチをして、それを活かしながら〈山の音楽家〉を皆で元気に歌いました。次は雰囲気を変えて連弾でサン＝サーンス作曲《動物の謝肉祭》より〈白鳥〉です。

ここで、リチャード・ロジャース作曲のミュージカル《サウンド・オブ・ミュージック》より〈ドレミのうた〉で、足先から頭の上までドレミの音名を一つずつ当てはめて、音の高さが体感できる音遊びをしました。子どもたちが集中して楽しく取り組んでいる姿を見ることができてよかったです。

再び演奏に戻り、ブラームス作曲〈ハンガリー舞曲　第五番〉をピアノ連弾で、岡野貞一作曲〈紅葉〉を独唱でお届けしました。最後は、秋の歌としてドイツ民謡〈こぎつね〉、イギリス民謡〈大きな栗の木の下で〉、〈どんぐりころころ〉、アンコールにアメリカ民謡〈幸せなら手をたたこう〉を皆で歌いました。

今回の反省点は、時間が五分余ってしまったことです。事前にもう一曲アンコール曲を用意し、柔軟に対応する力が必要だと実感しましたが、子どもたちとたくさん触れ合えた心豊かな実習経験となりました。

（齊藤明日香・記）

野木病院

十一月三日（土）十三時四十五分から医療法人社団佳生会野木病院サービス付き高齢者向け住宅「あけの」（兵庫県明石市魚住町長坂寺一〇〇三―一）にて「オータム・コンサート～旅する音楽の世界～」（六十分）を行いました（ピアノ・藤井花織、声楽・草野舞、山下優子、作曲／ピアノ・本田瑠璃）。

「音楽を通して世界を旅する」をテーマに、世界各国の音楽を通して、皆様に世界旅行している気分に浸って頂けるようなプログラムを考えました。

まずはロシアのチャイコフスキーのバレエ音楽《くるみ割り人形》より〈花のワルツ〉をピアノ連弾で演奏しました。次はイタリアのプッチーニ作曲の歌劇《ラ・ボエーム》よりアリア〈私が街を歩くとき〉と、ロッシーニ作曲〈猫の二重唱〉です。手作りのお魚を使った演出に、皆様も喜んで下さいました。

アメリカに飛んでガーシュウィン作曲〈四度のノヴェレッテ〉ではジャズのお話を交えて演奏しました。

オーストリアのヨハン・シュトラウス二世作曲のオペレッタ《こうもり》より〈侯爵様、あなたのようなお方は〉に続いて、本田瑠璃作曲《人魚姫》より〈憧れ〉では舞台を「夢の国」へと移し、空想の世界へ皆様をお連れしました。

アクティビティではわらべ唄の〈あんたがたどこさ〉を使って手遊びをしました。歌いながら濁音では膝を叩き、「さ」では手を叩くというリズム遊びです。少しむずかしいかもしれないと心配していましたが、皆様一生懸命に取り組んで下さいました。

次にドイツのシューマン作曲《ミルテの花》作品二十五より〈献呈〉と、秋にちなんで日本の滝廉太郎作曲〈秋の月〉を独唱しました。続いてフランスのシャンソン〈さくらんぼの実るころ〉をピアノ独奏で演奏し、再びガーシュウィン作曲〈ラプソディー・イン・ブルー〉を爽やかに演奏しました。

秋のコンサートだったので《秋メドレー》（赤とんぼ～ちいさい秋みつけた～紅葉）を二重唱でお送りしました。一緒に歌ってくださるお客様も多く、会場が一体となるのを感じました。最後に、皆様と一緒に中村八大作曲〈上を向いて歩こう〉を歌いました。アンコールには、岡野貞一作曲〈ふるさと〉と山田耕筰作曲〈赤とんぼ〉を歌いました。

こうして音楽で七カ国を巡ったコンサートでした。退場の際には「ありがとう」「また来てね」という温かい声をかけて頂き、とてもうれしかったです。皆様と一緒に音楽を通して同じ時間を過ごせたことに感謝しています。

（本田瑠璃・記）

兵庫中央病院

十一月十五日（木）十四時から、独立行政法人国立病院機構兵庫中央病院（兵庫県三田市大原一三一四）にて「オータムコンサート～旅する音楽の世界～」（四十五分）を行いました（声楽・草野舞、巽絵莉子、ピアノ・藤井花織、齊藤明日香）。

前回の野木病院と同様、「音楽を通して世界旅行を楽しんで頂く」という目的でプログラムを構成しました。会場には車椅子の方やベッドで来られている方、笑顔で一緒に歌って下さる方から反応を示すことがむずかしい方まで様々な患者様がおられました。今まで実習させて頂いた中でも、今回はじっくりと静かにお聴き頂いた印象で、終始落ち着いた雰囲気でコンサートが進みました。

まずチャイコフスキー作曲《くるみ割り人形》より〈花のワルツ〉をピアノ連弾でお届けし、続いてプッチーニ作曲のオペラ《ラ・ボエーム》より〈私が街を歩くとき〉を独唱しました。次にロッシーニ作曲〈猫の二重唱〉を喧嘩している二匹の猫が魚を分け合って仲良くなるという演出で演奏したところ、皆様の反応がよく、「昔飼っていた猫を思い出した」「魚が半分に割れたのが驚いた」などの感想を頂きました。次のガーシュウィン作曲〈四度のノヴェレッテ〉では、アメリカで発展したジャズを融合したクラシック曲を、マーラー作曲〈春の朝〉では爽やかな朝を情景とするドイツ・リートをお届けしました。アクティビティでは、わらべ唄の〈あんたがたどこさ〉で、「さ」の所で手を叩き、濁点がつく時に膝を叩くという遊びをしました。「むずかしいね」と言いながら楽しそうに取り組んでいる方、真剣な表情で叩いている方など反応が様々でした。アクティビティの後には〈さくらんぼの実る頃〉というフランスのシャンソンをピアノで演奏し、滝廉太郎作曲〈秋の月〉では紺青の空に浮かぶ月を思い浮かべながら、どこか切なさを感じる日本歌曲をお聴き頂きました。ガーシュウィン作曲〈ラプソディ・イン・ブルー〉をピアノ連弾でお届けした後、秋の童謡〈赤とんぼ～ちいさい秋見つけた～紅葉〉と、誰もが知っている日本の名曲を演奏し、患者様それぞれに曲に対する思い出がある様子が見受けられ、和やかな雰囲気となりました。最後に坂本九作曲〈上を向いて歩こう〉を会場の皆様と歌ってコンサートを終えました。

終演後には患者様からいろいろな感想を頂き、コンサートを通して多くの方々の心に寄り添えたことがとてもうれしかったです。

（草野舞・記）

西宮市立鳴尾北小学校

十一月二十二日（木）十三時四十五分から西宮市立鳴尾北小学校（西宮市学文殿町二丁目二―七）にて二年生五クラス（百六十人）を対象に芸術鑑賞会（四十五分）を行いました（ピアノ・齊藤明日香、向井千沙都、声楽・草野舞、山下優子、打楽器・山下すみれ）。

「リズム」をテーマに、小学校で習って児童たちに聞き馴染みのある曲を含めながら、様々な編成と楽器で演奏をし、体を動かしてリズムを楽しめるようなプログラムにしました。

始めはチャイコフスキーの組曲《くるみ割り人形》より〈花のワルツ〉をピアノ連弾で、モーツァルト作曲〈トルコ行進曲〉をピアノ独奏で演奏しました。演奏中は耳をすませて聴いていた様子で、終わると大きな拍手が起こりました。同じくモーツァルト作曲のオペラ《魔笛》より〈夜の女王のアリア〉では、コロラトゥーラや女王の怒りの表現に児童は圧倒されている様子でした。ルロイ・アンダーソン作曲〈シンコペーテッド・クロック〉では、時計の針や目覚まし時計が鳴る様子をピアノと打楽器で表現し、児童はリズムにのって聴いていました。続いてヘンリー・クレイワーク作曲〈大きな古時計〉を二重唱で、ハチャトゥリアン作曲〈剣の舞〉をマリンバ独奏で演奏しました。穏やかでゆったりしたリズムの曲から激しくて速いリズムの曲に変わり、盛り上がっていくのが分かりました。

アクティビティは、ペレス・プラード作曲〈マンボ、ナンバー・ファイブ〉にのせて手と足を使ってリズムを刻みました。皆で合わせようという気持ちが伝わってきて、会場全体で様々なリズムが重なる一体感を味わえたと思います。

ロッシーニ作曲〈猫の二重唱〉では、皆釘付けになって聴いてくれて、魚を取り合いしていた猫たちが一匹を分け合って仲直りする様子に安堵の拍手が起こりました。

その後、ホルストの組曲《惑星》より〈木星〉を演奏者全員のアンサンブルでお届けし、秋メドレーでは〈虫の声～もみじ～赤とんぼ〉を歌いました。

最後に久石譲作曲〈さんぽ〉をアンコールで歌いました。児童たちも元気いっぱいに歌ってくれました。隣の児童と感想を言い合ったりして楽しんでいるようでした。今後少しでもこの芸術鑑賞会のことを思い出し、リズムに注目して音楽を楽しんでくれたらうれしいです。

（山下すみれ・記）

子どものための音楽作りワークショップ

「第九回　音で遊ぼう！子どものための音楽作りワークショップ」を九月十五日（土）、本学音楽館ホールで開催しました（九時三十分開始・十六時終了、子どもの参加者十一名）。講師は、オリヴィア・ブラッドベリー、ジェームズ・アダムス、東瑛子のロンドン市立ギルドホール音楽院大学院修士課程リーダーシップ課程修了の三名です。参加学生は、本学学生と卒業生で、ピアノ専攻二人、声楽専攻五人、ヴァイオリン専攻一人、打楽器専攻二人、作曲専攻一人の計十一名が参加しました。

このワークショップは、楽譜から音楽を奏でるのではなく、音楽を一から作り上げていくことが目的でした。学生は九月十二日からの三日間、「音楽作りワークショップ特別研修」を受けて準備をし、最終日の十五日にその仕上げとして子どもたちとワークショップを行いました。

当日はまず、ウォーミング・アップから始まりました。リズムに合わせて自己紹介をしたり、〈幸せなら手をたたこう〉の歌で手を叩いたり、〈ドレミのうた〉に乗せて音階の高さを身体で表現したりしました。初めは恥ずかしがっていた子どもたちも、次第に大きく身体を動かすようになっていきました。

次に、「三人の太郎（Ｔｈｒｅｅ　ＴＡＲＯ´Ｓ）」というテーマを基に一つの音楽を作るために、全体を「桃太郎」「金太郎」「浦島太郎」の三つのグループに分け、それぞれが音楽作りを始めました。私が携わった「桃太郎」のグループでは、子どもたちに桃太郎の物語の印象に残っているシーンを尋ね、そこから連想される音やリズムをモチーフに音楽づくりをしました。子どもたちから次々と湧き出てくるアイデアに驚かされる中、どの音楽の素材を使っていくか、グループ全員で試行錯誤しながら

「桃太郎」の音楽を作りました。

三つのグループが作った音楽は使用楽器や曲調が様々でした。これらを一つにするため、三つの太郎に共通の曲を作り、それを基に繋ぎ合わせ、全員で曲のクライマックスを作って、一つの大きな曲へと組み上げました。

最後に、できた曲を保護者の皆さんに披露し、大きな拍手をいただきました。終了後には、子どもたちから「楽しかった」「来年も来たい」という言葉を聞き、音楽を一緒に作ることができてよかったと感じました。

（和田茉弓・記）

履修生紹介

四年生（十七期生七名）からのメッセージ

藤井　花織（ピアノ）

私は今まで、お辞儀をして演奏して、またお辞儀をして帰っていくようないわゆる普通のコンサートの経験しかありませんでした。アウトリーチを履修して、初めて幼稚園や病院で演奏をしました。知識も面識もない人たちに音楽を楽しんでもらうには、良質な演奏以外にプログラムの構成や司会の内容、話し方に至るまで多くのことを考えなければなりません。今まで経験したことがない分、それらはむずかしい課題でしたが、むずかしい分、やりがいを感じることもできました。

本田　瑠璃（作曲）

アウトリーチでの学びを通して、様々な気付きや課題が見つかりました。特に、なぜその作品を演奏するのか、その作品を演奏することで何を伝えたいのか、自分の中で考えを明確に持つ必要があることに気付きました。また一つのコンサートを作り上げることの大変さや、多くの人の支えがあってコンサートは成り立っていることを感じ、当たり前に音楽ができることのすばらしさを感じることができました。

草野　舞（声楽）

振り返ると大変なことや苦労したことがたくさんありましたが、これらはとても貴重な経験となりました。イレギュラーな事態に対応しなければならなかったことや、時間がなくてもどかしい思いをしたことなど、当時は一つ一つ乗り越えることで精一杯でしたが、そんな時間を重ねた今では、優先順位をつけて限りある時間の中で最善の方向へ進むことができるようになったと思います。苦労した分だけ達成感があり、それをメンバーで共有できることがこの上ない喜びでした。多くのことを学ばせて頂き、大変感謝しております。

向井　千沙都（ピアノ）

アウトリーチ実習を通して、常に客観的な視点を持つことの重要さを学びました。実習の様子を後にビデオで振り返ることで、定期的に自分たちの演奏や話し方、立ち居振る舞いなどを見つめ直すことができます。また、今、何を最優先にすべきなのか、どのくらいの準備が必要かなど、状況を客観的に捉えることを心掛けるようになりました。大変なこともありましたが、その分、自分を成長させ、たくさんの貴重な経験を積むことができました。

齊藤　明日香（ピアノ）

準備に時間をかけ過ぎることに辛さを感じていましたが、本番の回数を重ねて、様々な対象に向けての演奏やプログラム作成が可能になりました。今まで試験やコンクールで演奏を「傾聴」して頂く場が多数ありましたが、それは決して当たり前ではないと認識できました。聴衆に興味を持ってもらうために、何ができるか。それがアウトリーチ活動の第一歩だと感じました。皆さんも、貴重な学生生活の中で新しい経験をたくさ

ん楽しんでください。

山下　すみれ（打楽器）

この授業で伝える力を養うことができました。演奏と言葉で音楽の魅力をどのように伝えたら伝わるかということを常に考えてきました。プログラムを考え、曲の研究を細部までこだわって様々な視点を持ち、話し方を工夫しました。音楽の楽しさを共有できた時は達成感に繋がりました。演奏の質を高め、自分たちの言葉で伝えることの大切さも学びました。忙しい中で実習は大変でしたが、大変なほど終わった後のやりがいは大きかったです。

山下　優子（声楽）

アウトリーチを履修して感じたのは、安定した演奏をすることがいかにむずかしいかということです。演奏以外のＭＣや小道具はもちろんですが、その中で演奏の質を保つことも重要だとこの一年で分かりました。また、対象者に即したテーマを考え、選曲をするのも忘れてはいけません。

限られた時間の中で準備をし、本番に臨むことはとても大変ですが、新たな発見や反省が得られます。是非、皆さんも興味があれば履修してみて下さい。

「音楽によるアウトリーチ（講義）」

履修生（三回生十三名）

声楽　別所香穂、安川陽菜、松井偉乃里

ピアノ　井本斐、金沢侑奈、勝間田萌、小川瑞葵、大橋奏美、西郷真未

フルート　磯貝瑛里

クラリネット　反田沙耶

コントラバス　岩﨑朱夏

藤井立空（英文学科）

アウトリーチ要員からのメッセージ

谷田　奈央さん（五期生）

アウトリーチ要員として四年目のシーズンが終わろうとしています。今年の履修生たちは、この四年間で一番成長した学年だと感じています。天災による数々の試練に屈することなく諦めず、どの公演も立派にやり遂げました。今年度は私事ですが双子女児を出産し、学生たちには七夕コンサート前に大きなお腹で心配をかけたことと思います。産後も家族のサポートのおかげですぐに復帰し、学生たちと真剣に向き合う日々を過ごすことができました。卒業する皆さんが、この授業で培った精神を活かしてそれぞれの道で活躍してくれることを楽しみにしています。

2018 年度　実習歴

6月14日	（金）	西宮市立門戸幼稚園アウトリーチ
7月14日	（土）	子どものための七夕コンサート（シリーズ第 50 回）
7月19日	（木）	西宮市立用海幼稚園アウトリーチ
9月15日	（土）	第９ 回「音楽で遊ぼう！子どものための音楽作りワークショップ」
10月13日	（土）	子どものためのスペシャル・コンサート（シリーズ第 51 回）
11月 1日	（木）	西宮市立子育て総合センター付属あおぞら幼稚園アウトリーチ
11月 3日	（土）	医療法人社団佳生会　野木病院アウトリーチ
11月15日	（木）	国立病院機構 兵庫中央病院アウトリーチ
11月22日	（木）	西宮市立鳴尾北小学校アウトリーチ
12月 8日	（土）	子どものためのクリスマス・コンサート（シリーズ第 52 回）
12月14日	（金）	雲雀丘学園小学校アウトリーチ
3月 1日	（金）	兵庫県立東はりま特別支援学校アウトリーチ
3月 6日	（水）	国立病院機構 刀根山病院アウトリーチ

音楽をお届けします！！

「アウトリーチ」とは、「一歩踏み出すこと」「手をさしのべること」。
大学やホールといった従来の枠にとらわれずに、社会のさまざまな場にすてきな音楽のプログラムをお届けします。

♪小中学校へ：総合的学習支援プログラムとして、子どものための楽しい体験学習を！

♪病院や美術館へ：催しの趣旨に沿った手作りの音楽プログラムを、心をこめてお届けします。

お問い合わせは…
神戸女学院大学音楽学部 アウトリーチ・センター（月～金　10:00～15:00）
〒662-8505 西宮市岡田山 4-1　　TEL: 0798-51-8584　FAX: 0798-51-8551
E-mail：outreach@mail.kobe-c.ac.jp　　http://www.kobe-c.ac.jp/musicdp/outreach/

編集後記

センターに勤務して早5年。多くのことを学び、充実した時間を過ごすことができました。心より感謝申し上げます （森）
中身の濃いあっという間の1年でした。来年度もよりよいサポートができるよう頑張ります （丹野）
地震や台風の影響で苦労の多い一年でしたが、学生たちがぐんぐん伸びてくれたのが何よりです （津上）